



ドイツ

発がん物質が検出されたキックスケーターも

●商品テスト財団「テスト」2022年12月号 <https://www.test.de/Kinderroller-im-Test-5936182-0/>

片足をデッキに乗せ、もう一方の足で地面を蹴って進むキックスケーターが、子どもたちの人気を集めている。楽しく遊べるばかりでなく、バランス感覚を養うのにも役立つといわれている。商品テスト財団では、幼児(2歳以上)向けの3輪型5商品、小学生向けの2輪型11商品の計16商品を対象に、走行性、安全性、有害物質の含有等をテストした。

屋外コースを使った実地テストは、保育園児7人、小学生20人の協力を得て行われた。保育園児には3輪型で平坦な舗装路を走ってもらい、小学生には^{へいたん}2輪型で、平坦な舗装路に加えて、急斜面、芝生、砂地の走行、縁石への乗り上げも試してもらった。

その結果、走行性はおおむね良好と評価されたが、小学生向けの車輪の小さい2商品は、未舗装地での走行に難ありと判断された。そこで同財団は、平坦な

場所以外でも走りたい子どもには、車輪が大きい商品を選んだほうがよいと助言する。また、幼児向けの1商品にはガタつきがあり、発進の際、数人が転倒したとのことである。なお、小学生向けの商品は、電車等での持ち運びを考慮して折り畳み式だったことから、開閉時の安全性を検証した。その結果、指を挟み込みそうな商品が1つあったという。

さらに、車体の各部位を削って有害物質の有無を調べたところ、小学生向け6商品のグリップやデッキから、相当量が検出されたという。そのうち、特に問題の多い2商品に落第点が付いた。発がん性がある短鎖塩素化パラフィンや多環芳香族炭化水素が基準値を超えて含まれていたためである。既にこれらの商品を購入した消費者に対しては、該当部品を事業者に交換してもらうよう勧めている。



フランス

環境と財布にやさしい自家用車の相乗りサービスが人気

●エコロジー移行・地域結束省ホームページ

<https://www.ecologie.gouv.fr/covoiturage-en-france-avantages-et-reglementation-en-vigueur#:~:text=%C3%80%20partir%20du%201er%20janvier,d%C3%A9lai%20de%203%20mois%20%C3%A0>

どこへ行くにも自家用車を多用するフランスは、車社会といえる。通勤に自家用車を使う人は7割に達し、ほとんどが同乗者のいない1人乗りだという。旅行で遠出する際も自家用車利用が主流で、各自が温室効果ガスを排出しながら、交通渋滞の原因を作っているのが現状である。

ところが近時、運転者1人だけで車を走らせるよりも、誰かを同乗させるほうが合理的だと考える人が増えてきた。経済性・効率性を重視するのは、車を持たない人も同様である。高額な特急列車を利用するより、誰かの車に同乗したほうが格段に安い。え、鉄道駅から離れた場所での発着も可能なので、使い勝手がよいと気づいたからだ。

そこで人気を集めているのが、自家用車の相乗り(ライドシェア)サービスである。まず、車で移動す

る予定の運転者が、日程や出発地・目的地等を登録する。誰かの車に同乗したい人がサイトを検索し、条件に合う情報を見つけると、当事者間で直接連絡を取るしくみである。ガソリン代等の経費は人数に応じて割り勘となるが、タクシーとは異なり、運転者の報酬はない。サービスを利用するに当たり、運転者も同乗者もサイト上で会員登録することが前提となる。

相乗りサービスが普及すると、温室効果ガスの排出削減、渋滞の緩和が期待できるほか、公共交通機関が乏しい地域の移動手段を確保できるなど、メリットが多い。見知らぬ住民同士の交流につながる点も注目されている。そこで、フランス政府は相乗りサービスの推進に力を入れており、資金援助などの支援策に乗り出している。



アメリカ

電動自転車の火災事故を減らすために

● CPSC ホームページ

<https://www.cpsc.gov/Newsroom/News-Releases/2023/CPSC-Calls-on-Manufacturers-to-Comply-with-Safety-Standards-for-Battery-Powered-Products-to-Reduce-the-Risk-of-Injury-and-Death>

● CR ホームページ

<https://www.consumerreports.org/health/electric-bikes/electric-bike-fires-and-lithium-ion-batteries-a4632489902/>

排気ガス削減や交通渋滞解消に役立つと期待されながらアメリカでの普及が進まなかったeバイク(電動自転車)だが、コロナ禍での公共交通機関の回避や屋外活動の楽しみのため、また配達員の足として台数が急増している。LEVA(軽電気自動車協会)は、2021年は前年のほぼ2倍の約88万台のeバイクが輸入されたと推計。しかし、低品質のリチウムイオン電池に起因する火災事故が急増している。

CPSC(消費者製品安全委員会)は、過去2年間に少なくとも39の州で208件のeバイクやeスクーター(電動キックボード)などの小型移動ツールによる火災や過熱事故の発生と19人の死亡が報告されたとし、これらの製品の製造・輸入・流通の各事業者2千社超に対し、自主基準であるUL*安全規格への準拠を

* アメリカ保険業者安全試験所

求め、順守しない場合は強制措置が取られる可能性があるという警告する書簡を送った。

CR(コンシューマーレポート)によると、2022年12月までにニューヨーク市でeバイクの火災が202件発生し、負傷者142人、死者6人の被害が出た。バッテリーの爆発で約18m先まで飛び火し、火の回りが早く消火が難しいと同市消防局はいう。

CPSCによるeバイクの規格要件は40年以上前の一般自転車の要件に「完全に操作可能なペダル、750W以下の電動モーター、モーターのみによる最高速度20mph(約32kmh)未満」を追加しただけであった。UL認証は有料のため、CRの商品テストでも認証付きの製品はまだ少数であった。今回の警告書簡によりCPSCによる強力な監視とより厳しい安全基準が期待されるとCRは歓迎している。



オーストラリア

若い世代をねらう求人詐欺に注意

● ACCC ホームページ <https://www.scamwatch.gov.au/news-alerts/new-year-new-job-beware-of-scammers>

ACCC(オーストラリア競争・消費者委員会)の詐欺監視サイトScamwatchが公表した2022年の求人詐欺による損失額は870万豪ドル以上で、特に25~44歳の被害が目立つという。Scamwatchには被害の13%しか報告されないというなか、2022年は3,194件もの被害報告があり、特に同年後半の数カ月間に急増したため、新卒者を含め年明けに新たに仕事を探す人に警鐘を鳴らしている。

最近の求人詐欺は、サイトやアプリ上で製品を購入するために繰り返しボタンをクリックしたり、レビューを送信するなどのわずかな労力で高収入が得られるとSNSやメッセージアプリ上で勧誘する手口が多い。有名企業や人材紹介会社などになりすまして保証金の前払いを要求し、応募者の個人情報や多額の金銭を盗む。

Scamwatchは詐欺を避けるために ●相手に金銭や情報を渡す前にいったんとどまる(Stop) ●メールや電話は虚偽ではないか疑う(Think) ●違和感を覚えたら早急に金融機関に連絡しScamwatchに報告(Protect)を提唱している。特に求人詐欺への注意として ●適性や仕事経験に関する話し合いも面接もせず仕事を提供されたら詐欺 ●採用担当者や求人会社を名乗る相手を別途検索して電話で確認 ●有名なサイトへの掲載だけでは信用しない ●履歴書に記入する個人情報の量に注意などを助言している。

ACCCは、詐欺と闘う人たちを支援するための国立詐欺防止センター新設に向けて、2022年詐欺防止対策予算から990万豪ドルを得た。今後もほかの官民の機関と協力し、情報共有して詐欺を阻止し消費者の擁護と啓発を進めていくとしている。